

翻 訳

日本と世界の架け橋に： 第16回日本製薬医学会年会のハイライト*

松山 琴音

IFAPP次期会長

Bridging Japan and the Global Community: Highlights from the 16th Annual Meeting of the Japanese Association of Pharmaceutical Medicine (JAPhMed)

Kotone Matsuyama

President-elect, IFAPP

訳 松山 琴音

IFAPP次期会長，日本製薬医学会理事，

国立成育医療研究センター 臨床研究センター長

Translated by Kotone Matsuyama

President-elect, IFAPP; Board Certified Member of JAPhMed

(The Japanese Association of Pharmaceutical Medicine);

Director, Center for Clinical Research and Development,

National Center for Child Health and Development, Japan

第16回日本製薬医学会（JAPhMed）年次大会が2025年7月25日，26日の両日，東京・日本橋で開催された。参加者は約200名で，その多くが日本の製薬企業に所属する会員であった。大会長は武田薬品工業株式会社の久我敦氏で，日本製薬医学会の理事でもある。

2日間のプログラムのハイライトは以下の通り：

初日の午前中，教育セッションでは京都大学大学院医学研究科の西浦博博士による講演「数理疫学と製薬医学への応用と展望」が行われた。また，別セッションでは，東京科学大学脳神経内科教授の三澤園子氏が，製薬企業間の連携と患者登録データの活用について議論した。

初日の午後には，医療安全委員会での今後の副作用情報提供のあり方について活発な議論が行われた。別の会場では，治療用アプリの開発に関するトピックが議論された。午後のハイライトは，大会長特別セッション「みんなで考える患者・市民参画」で，特定非営利活動法人筋強直性ジストロフィー患者会理事の妹尾みどり氏，ドラベ症候群患者家族会代表の黒岩ルビー氏，日本で新薬開発に取り組む株式会社C4Uの三木秀夫氏のパワフルな活動が紹介された。

* 本稿は，以下の原本から許可を得て翻訳した。Matsuyama K. Bridging Japan and the Global Community: Highlights from the 16th Annual Meeting of the Japanese Association of Pharmaceutical Medicine (JAPhMed). *IFAPP TODAY*. 2025; No. 58: 4-6.

<https://ifapp.org/wp-content/uploads/2025/10/IFAPP-TODAY-58-October-2025.pdf>

2日目は、2つ目の大会長企画「新規モダリティにおける開発・創薬の最前線」から始まった。核酸治療薬、mRNA（メッセンジャー RNA）ワクチン、環状ペプチドなどの新しいモダリティについて、3人の創薬研究の第一人者が発表した。このほか、メディカルアフェアーズ部会による「MSL（メディカルサイエンスリエゾン）認定基準の改定、MSL教育の重要性」、関西部会による「創薬スタートアップの課題と将来展望」と題したセッションなどが行われた。

2日目の午後には、国立精神・神経医療研究センター病院長の戸田達司先生による神経疾患の治療法開発に関する講演が行われた。朝日賞、ベルツ賞など数々の荣誉ある賞を受賞している戸田先生の業績は多岐にわたる。

2日目最後の臨床開発部会のセッションでは、会議のテーマである「みんなでつくる製薬医学の未来」に沿って、日本における臨床試験や研究をいかに誘致するかに議論が集中した。

国際製薬医学会（IFAPP）との連携という点では、2つの注目すべきイベントがあった：

- 初日のレセプションでは、IFAPP フェローシップの授与式が行われた。新たに4名のフェローが選出され、記念品が手渡された。
- また、松山琴音氏がIFAPP次期会長に選出され、JAPhMedからお祝いと記念品が贈られた。

2日目最後のセッションはIFAPPとの共催で、「患者・コミュニティ参画のベストプラクティス」に焦点を当てたものであった。セッションの概要は以下の通り：まず、Eric Klaver IFAPP 会長が現在のIFAPPについて発表し、IFAPPの活動範囲についても語った：IFAPPは、世界約30カ国の製薬医学会で構成される国際学術団体である。日本製薬医学会（JAPhMed）はIFAPPの国内加盟団体である。IFAPPの中では、製薬医学分野の課題への取り組み、国際交流の促進、製薬医学教育、倫理、コミュニケーション、若手専門家のエンパワーメントなどのイニシアチブを推進するために、様々なワーキンググループ活動が行われている。さらに、IFAPPは月刊の機関誌IFAPP TODAYを発行し、2年に1度の国際会議であるInternational Conference on Pharmaceutical Medicine (ICPM) を主催している。

この最終セッションでは、IFAPP前会長と主要なオピニオンリーダーを招き、IFAPPワーキンググループの関連活動を紹介し、製薬医学における患者・市民参画のベストプラクティスについて議論した。

プログラム・チェアは以下の通り：

1. 今村恭子氏（IFAPP 元会長、一般社団法人医療開発基盤研究所 理事長）
2. 松山琴音氏（IFAPP 次期会長、国立成育医療研究センター臨床研究センター長）

プログラムセッションは以下の通り：

1. Meaningful Engagement につながる患者市民への教育研修
雪吉歌小里氏（IFAPP/ファーマトレイン 医薬品開発スペシャリスト
岡山大学病院 新医療研究開発センター 治験推進部）
2. WMA ヘルシンキ宣言の2024年改訂と製薬医学への影響、患者参画の現状と今後の展望
栗原千絵子氏（JAPhMed IFAPP 代議員、神奈川歯科大学特任教授、「臨床評価」編集長、
IFAPP倫理ワーキンググループメンバー）
3. 持続的な患者参画がもたらすパシエントエクスペリエンスデータの価値
八木伸高氏（日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 一般社団法人YORIAILab 理事長）

ICPM2027は、JAPhMedとの共催で日本での開催が期待されている。今回は、残念ながらアジアの加盟団体とのセッションはなかったが、ICPM2027に向けてアジア地域との連携を強化していく。今後ともご支援のほどよろしくお願いしたい。



松山琴音教授，IFAPP次期会長選出おめでとうございます。



IFAPP フェローシップ受賞者4名とJAPhMed年次大会会長（久我敦先生）
山本恒久先生、吹野恵子先生、中條航先生（それぞれRising Star, Early Career in
Pharmaceutical Medicineの受賞者）、小森英寛先生（シニアフェローシップ, Scientific
Leaders in Pharmaceutical Medicineの受賞者）